

地球から来た男

星^{ほし} 新^{しん}一^{いち}

内容理解

この文章で作者は、他の惑星から来たと回想する男の、故郷への思いを描こうとしている。本文を読み直しながら、空欄に入る適切な言葉を補ってみよう。

他の惑星の野原

- ・どつちをむいて¹ の念をいだけばいいのか、わからない。
- ・いたたまれない気分。さびしい。なんという² なことだ。
- ・³ を持てあましながら、ここでいつまでもすごさなければならぬとは。

「おれ」の回想

- ・調査会社につとめていた「おれ」は、上役から産業スパイになるよう命じられ、酔わせた所員から身分証明書とバッジを手に入れ、研究所に侵入、パトロールの守衛につかまり、⁴ の刑に処せられる。
 - ・注射をうたれ、テレポーテーション装置で、遠くはなれた他の星に追放された。
- 地球にそっくりの星での出来事と「おれ」の気持ち

- ・住民と会話。言葉が通じる。ここは「地球」だと言われる。
- ↓ 地球とは「自分たちの住むこの星」という意味ではないか。
- ・レストラン。お金が通用する。食事は口に合い、値段もほどほど。
- ↓ 幸運にも、宇宙にある⁵ の星のなかで、地球にそっくりの星に来た。
- ・電車で、住んでいた都市と同じ名の都市へ。
- ↓ こんなにまで地球そっくりの星。

街を歩いていて、自分そのものに出あったようなものだ。むずむずする。

語句

この文章の中で使われていた次の言葉を使って、短文を作ってみよう。

人間的（五九・下七）

差異（五九・下11）

奇異（六二・下4）

待遇（六四・下20）

↓……地球にいるのだという⁶

におちいりさえする。

↓地球から追放されてきたおれを、夫と思いこんでいる妻に⁷

する

地球に残してきた妻子を思い出して、涙ぐむ。

↓ここは地球と同じすぎる。仕事は地球と同じで、ちがった点はなかった

孤独（普通にあつかわれてくれるが、だれも地球から来た者だと気づかない。すまない。

気が重い。 8
されない悲しさ。）

・医者にみてもらおう。故郷の地球とどこがちがうのか指摘しろ、と言われる。

↓この星が地球そっくりなのに、いらいらし腹が立つ。

・研究所のある場所へ、旅に出る。

↓…帰る方法はなく、この異境に⁹

できないで、心を持てあましている。

↓ 住みごころは悪くないが、地球が故郷の星だ

仲間ができ、
人の会を作ろ。

↓地球の思い出話に、おれたちの心のなかで、なつかしさが波をうちつづける。

この作品で作者はどのようなことを描こうとしたと思われるか、次のことに着目して、百字程度でまとめてみよう。

〈着目点…故郷の地球を思い続ける「おれ」の心情〉

〈着目点…故郷の地球を思い続ける「おれ」の心情〉

次の中で興味を持った事項について、図書館の書籍やインターネットなどを使って調べてみよう。

・SFの小説とはどのような小説で、どのような作品があるか。

・時代小説とはどのような小説で、どのような作品があるか。

・ノンフィクションとはどのような作品か。